

平成20年11月12日

各位

会社名 日本製麻株式会社
 代表者名 取締役社長 中本 広太郎
 (コード番号 3306 東証第2部)
 問合せ先 取締役経理部長 池田 明穂
 (TEL. 078-332-8251)

業績予想の修正並びに特別利益及び特別損失の発生に関するお知らせ

I. 業績予想の修正について

最近の業績の動向を踏まえ、平成20年5月23日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

平成21年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成20年5月23日発表)	3,713	161	126	9	0.25
今回修正予想(B)	3,909	186	182	12	0.35
増減額(B-A)	196	25	56	3	—
増減率	5.3	15.5	44.4	33.3	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	3,593	87	63	19	0.52

平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成20年5月23日発表)	7,246	294	230	55	1.50
今回修正予想(B)	7,428	319	286	52	1.42
増減額(B-A)	182	25	56	△3	—
増減率	2.5	8.5	24.3	△5.5	—
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	7,503	291	210	69	1.90

平成21年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成20年5月23日発表)	2,938	87	52	29	0.79
今回修正予想(B)	2,908	79	61	93	2.54
増減額(B-A)	△30	△8	9	64	—
増減率	△1.0	△9.2	17.3	220.7	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	2,774	31	19	10	0.30

平成 21 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A） （平成 20 年 5 月 23 日発表）	5,616	144	81	44	1.20
今回修正予想（B）	5,587	136	90	107	2.92
増減額（B－A）	△29	△8	9	63	—
増減率	△0.5	△5.6	11.1	143.2	—
（ご参考）前期実績 （平成 20 年 3 月期）	5,452	86	28	15	0.41

修正の理由

1. 連結業績予想について

(1) 第 2 四半期連結累計期間

売上高は、個別での影響を受け、産業資材事業、水産事業、ホテル・レストラン事業では減収となり、食品事業では増収となりました。一方、マット事業では海外での営業活動による中東諸国向け高級車用フロアーマットの市場拡大により増収となりました。

この結果、前回予想を上回り売上高は 5.3%増の 3,909 百万円となり、マット事業の増収による影響や、食品事業の増収及び販売費用の削減などにより営業利益は 15.5%増の 186 百万円となり、為替の影響などで経常利益は 44.4%増の 182 百万円となり、マット事業において海外子会社の「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」退職給付会計基準変更時差異の処理額として特別損失 90 百万円を計上しましたが、四半期純利益は 33.3%増の 12 百万円となりました。

(2) 通期業績予想

通期の業績予想につきましては、世界的な金融危機や穀物市場及び原油価格の影響を受け、当社グループを取り巻く経営環境は極めて厳しい状況で推移するものと思われまます。これらを踏まえ売上高は 7,428 百万円、営業利益 319 百万円、経常利益 286 百万円、当期純利益 52 百万円を見込んでおります。

2. 個別業績予想について

(1) 第 2 四半期累計期間

売上高は、食品事業部門では穀物価格の高騰による原材料価格及び原油高に伴う燃料費や資材等の高騰により原価高となり、これに伴い販売価格を大幅に改定し増収となったものの、産業資材事業部門では国内向け自動車用フロアーマットの取扱車種の需要が減少し、住宅関連のカーペット用麻資材の落ち込みや、インドのストライキの影響による季節商材の輸入の遅れなどによる減収、水産事業部門では鮎の成育の遅れと需要の低迷が影響し減収、ホテル・レストラン事業部門では景気低迷の影響を受けるなど減収となりました。

この結果、前回予想を下回り売上高は 1.0%減の 2,908 百万円となり、食品事業部門での増収による影響や販売費用の削減など収益は改善されましたが、産業資材事業部門、水産事業部門、ホテル・レストラン事業部門の減収による影響により営業利益は 9.2%減の 79 百万円となり、為替の影響などで経常利益は 17.3%増の 61 百万円となり、関係会社株式売却益 99 百万円の特別利益、減損損失 19 百万円の特別損失を計上し、四半期純利益は 220.7%増の 93 百万円となりました。

(2) 通期業績予想

通期の業績予想につきましては、世界経済の景気減速により国内の需要は急速に低下する様相を見せており厳しい状況が見込まれます。これらを踏まえ売上高は 5,587 百万円、営業利益は 136 百万円、経常利益は 90 百万円、当期純利益は 107 百万円を見込んでおります。

II. 特別利益及び特別損失の発生について

1. 特別利益の発生について

平成 20 年 7 月 18 日開示の子会社株式の一部譲渡により発生した特別利益は個別において 99 百万円の計上となりました。

2. 特別損失の発生について

当第 2 四半期会計期間におきまして保養施設として使用していた前山荘は、維持管理費用削減のため売却予定とし、減損損失として 19 百万円を計上いたしました。

以 上